

報告7(3):全国スポーツ少年団競技別交流大会 大会名称の変更について

令和6年11月21日

第3回日本スポーツ少年団常任委員会

P57

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

令和5年度JSPPO第6回理事会(3/6)

「全国スポーツ少年団競技別交流大会」の今後の在り方(案)



JSPPO
Japan Sport Association

2. 結 論

大会の内容・運営方法を改善し、当面の間、継続。

〔継続するにあたっての取組〕※令和6(2024)年度中に継続して検討

- (1) 子供たちにとって望ましい大会の開催・普及に向けて、「ジュニア・スポーツ大会レギュレーション(仮称)※」を令和6(2024)年度中に策定。競技団体並びに開催県と連携・協力し、令和7(2025)年度の大会から順次導入。スポーツ少年団の理念に則った大会の「モデル大会」と位置づけ、独自ルール等の導入を含めて、スポーツ少年団が目指す大会の今後の在り方を示すとともに、ブロック大会や都道府県大会等への波及を目指す。

※競技規則である「ルール」に対し、大会開催方法や運営に関する決まりを「レギュレーション」と呼ぶ。
「ジュニア・スポーツ大会レギュレーション」の具体例として、①出場機会の確保(リーグ戦や交流試合等の実施)、②交流機会の充実(アフターマッチファンクション等の実施)、③スポーツ・インテグリティの強化を検討。

- (2) 持続可能な大会運営に向けて、受益者負担の考えに基づき、参加料の設定、大会期間中の参加者の宿泊・食事・交通等は自己負担とすることなどを検討。

- (3) 大会の目的を再確認するとともに、いわゆる「日本一を決める全国大会」とは一線を画すものとして、大会の名称変更を検討。

- (4) 大会の今後の在り方等については、都道府県スポーツ少年団並びに競技団体の現場の協力を得ながら継続して検討。

P58

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

2



- 令和6年度中に、全国スポーツ少年団競技別交流大会の**名称変更**を検討することを確認。
- 名称変更の検討のため、「**全国スポーツ少年団競技別交流大会検討プロジェクト**」を新たに設置することを承認。



- これまでに3回のプロジェクトを実施。
- 本日は、プロジェクトで検討を進めている大会新名称の候補(複数)をご提示。

P59

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

3



□ 全国スポーツ少年団競技別交流大会検討プロジェクト

座長	富田寿人	常任委員、活動開発部会長
班員	大澤 静香	スポーツ少年団指導者(総合型地域スポーツクラブBAGUS)
班員	工藤 憲	日本小学生バレーボール連盟
班員	清野 祐	全日本軟式野球連盟
班員	高澤 彰	全日本剣道連盟
班員	武長 理栄	笹川スポーツ財団/日本スポーツ少年団活動開発部会員
班員	中野 吉之伴	指導者(サッカー)
班員	行實 鉄平	久留米大学/日本スポーツ少年団活動開発部会

P60

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

4

現行の大会名称について

□ 前提

- ・ スポーツ少年団は勝利至上主義を否定しており、子どもたちにとって望ましい大会を開催・普及することを目指している。
- ・ 青少年の育成のため、スポーツを通じた交流が重要であると捉え、全国スポーツ少年団競技別交流大会では交流機会を設定している。

□ 課題

- ・ 大会名称に“全国”が含まれていることもあり、単に“全国優勝”“日本一”を目指す出場者も多い。また、スポーツ少年団の内外を問わず、そのように認知されているケースも多くある。
- ・ 大会の目的を再確認し、いわゆる「日本一を決める全国大会」とは一線を画すものとして、大会の名称変更を検討する必要がある。

※「全国大会＝勝利至上主義」とは考えておらず、スポーツ少年団が主催する、交流を重視した大会として、広く認知されることを目指したい。

P61

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

5

全国スポーツ少年団競技別交流大会検討PT

全国スポーツ少年団競技別交流大会検討PT & 活動開発部会での協議の結果、
大会名称を変更することで合意。新名称(案)をリストアップ。

大会名称変更までのスケジュール(想定)

● 候補のリストアップ	【～令和6年11月】候補となる名称をリストアップ。
● 候補の提示	【令和6年12月】都道府県スポーツ少年団に対して複数の候補を提示。
● 選定	【令和7年1月】寄せられた意見を踏まえ、新名称(案)を絞り込み。
● (案)の決定	【令和7年2月】活動開発部会で新名称(案)について検討。
● 新名称の決定	【令和7年2月】日本スポーツ少年団常任委員会に付議。 【令和7年3月】日本スポーツ少年団委員総会で報告。
● 導入	令和7(2025)年度大会から新名称で開催。

P62

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

全国スポーツ少年団競技別交流大会検討PT&活動開発部会から、
新名称(案)として次の3つをご提案します。

案① エンジョイ！スポーツフェスティバル

案② フェアプレー交流フェスティバル

案③ 日本スポーツ少年団フェアプレー大会

P63

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

案①

エンジョイ！スポーツフェスティバル

【例】

第22回エンジョイ！スポーツフェスティバル(バレーボール)

第22回エンジョイ！バレーボールフェスティバル

エンジョイ！スポーツフェスティバル・第22回バレーボール

【提案理由】

- ・ ジュニア世代では、まずはスポーツを“たのしむ”体験を獲得してほしい。
 - ・ スポーツにおける競争も含め、たのしんでほしい。
 - ・ “フェスティバル”はポジティブな印象を与えることができる。
- ⇒“全国大会”というイメージからの脱却

P64

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

案②

フェアプレー交流フェスティバル

【例】

第22回フェアプレー交流フェスティバル(バレーボール)

第22回バレーボール・フェアプレー交流フェスティバル

フェアプレー交流フェスティバル・第22回バレーボール

【提案理由】

- ・ フェアプレーは、スポーツを真にたのしむうえで欠かせないものであり、スポーツ少年団の理念に合致する。
 - ・ 現行の「全国スポーツ少年団競技別交流大会」から、引き続き“交流”をアピールできる。
 - ・ “フェスティバル”はポジティブな印象を与えることができる。
- ⇒“全国大会”というイメージからの脱却

P65

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.

案③

日本スポーツ少年団フェアプレー大会

【例】

第47回日本スポーツ少年団フェアプレー大会(剣道)

第47回日本スポーツ少年団剣道フェアプレー大会

日本スポーツ少年団フェアプレー大会・第47回剣道

【提案理由】

- ・ フェアプレーは、スポーツを真にたのしむうえで欠かせないものであり、スポーツ少年団の理念に合致する。
- ・ 「日本スポーツ少年団」を含めることで実施団体が読み取れる。

P66

©2024 Japan Sport Association All Rights Reserved.